



(上)長年放置された谷津田は現在、イノシシのぬた場と餌場程度でしか利用されない場所になってしまいました。

(下)産卵場所の水場の中には水が少なく、乾燥に伴って両生類の卵のうが全滅するケースが多くなっています。あきる野市内でトウキョウサンショウウオの卵のうに被害が出た様子です。



冬、次世代のスタンバイ

あきる野市でトウキョウサンショウウオを中心に減少している、両生類の調査を続けて5年目となり、これらの保全活動をはじめ3年目になりました。

1年の中で最も寒い季節は、両生類たちを支援するのに最適な時期です。3年前や2年前も、森林レンジャー新聞やあきる野市の広報で両生類のためのビオトープ(池など)を紹介しました。今回も、継続しているこの活動のお話しをしたいと思います。

両生類の生息環境や生体は、外来種の影響や土地利用の変化などにとっても敏感です。両生類の個体群や生息場所は、かつて豊富であった谷津田や溜池、昔ながらの石垣の水路などが放置されたため、水場として機能しなくなり、両生類が産卵することが出来なくなってしまう場所が毎年増加しています。このようなことから、あきる野市の数箇所で、産卵場所の整備や復興などを行っています。今年も自然との調和を目指しながら両生類たちの産卵をサポートしています。

(下)コレンジャーと一緒に、養沢の山間の旧谷津田で作っているビオトープ(池)の作業風景。



ソウシチョウ、増加中…

とても美しく、鳴き声も綺麗なソウシチョウはバードウォッチャーにも好かれている鳥類の一つですが、実はこのソウシチョウは江戸時代に日本に持ち込まれた外来種です。数十年前から野生化したことが確認され、現在は日本の広い範囲で生息し繁殖しています。

あきる野では、特に秋から翌年の春まで良く見られる鳥類であり、メジロやカラ類の群れと交じり、様々な森で活動しています。どの程度生態系に影響を与えているのか不明ですが、鳥類をよく観察している私としては、数年前からソウシチョウの目撃が多くなり、数が増加している印象を強く感じます。この先、外来種で良く見られるガビチョウと同様に注意が必要になってくると思います。

外来種対策の時代になった現在、自然保護のためには課題が多いと感じています。

(右)冬、ムラサキシキブの実を食べるソウシチョウ

[パブロ]



森の子レンジャー活動報告（11月、12月）

11月は森歩き

11月は、「花とアートの里」深沢の森に入りました。深沢地区は、有名な南沢のあじさい山をはじめ、四季を通して花が楽しめる美しい里です。5年前のレンジャー始動式で、植樹したシャクナゲの山の下刈り作業は毎年協働で続けています。

その深沢で、“人が歩かなくなった山道”“金比羅尾根”“深沢地域と協働で整備して復活させた堀田尾根”を歩きました。登山を安全に楽しむための地図、レンジャーが行う巡視や調査、協働の整備、一人歩き、自然観察など盛りだくさんの学びがあった一日となりました。



←調査中に教えあう

→
地域で設置した道標に
ありがとうございます
はってありました



12月はアニマルサンクチュアリ活動 ～野生生物と人が持続的に共存していくことを目指した取り組み～

ピオトープ

12月の活動はピオトープ作りでした。朝、パブロの「ピオトープは命が生まれてつながっていく場所」だというレクチャーをうけた後、現場へ行きました。

現場では3期が作った水場を見て、イメージとやる気をふくらませたら、早速作業に取りかかります。木をきる人、土留めを作る人、池を掘る人、階段を作る人、植物を調べる人、野生動物の食べ物となる植物を移植する人、水路を作る人…野生動物と自分のために、協力しながら自分が選んだ作業に没頭しました。寒い寒いと言いながらも誰一人手を止めることなく、利用されずに荒れてしまった谷津田が生物に暮らしてもらえる環境として生き返り始めました！みんなの力はすごい！1月も引き続きピオトープ作り楽しみます♪



森を整備する際にきった木や倒木をピオトープに利用するぞー



きる人の安全を考えた結果…



ピオトープ作りの後にキウイ狩り



ヘルメットや袋いっぱい収穫したキウイ

秋から冬にかけて、山里では、カキやクリ、キウイなどの果実、それから畑の作物やゴミなどをねらってサル、イノシシ、クマなどが森から出てきます。人は食べ物や命を守るために野生動物を森へ追いやり時には命を奪います。悲しいけれどこれが森と人が生きてきたあきる野の現実。人の命は様々な命のもとに成り立っているけれど、野生動物の命をうばい続けていいの？人間もできることをやろう！ということで、8月はどんぐり調査、10月には「ゴミは朝出しましょう、果実は収穫しましょう」などの注意喚起ポスターを作り小宮6自治会に掲示しました。今回は、3年前クマが出てきた場所で「山里の果実は責任をもって収穫することが、野生動物も人も守ることにつながる。」と、キウイ狩りのお手伝いをしました。収穫したキウイは持ち主さんのご厚意で仲良く分けました(^0^)

木を切らなくても、木を植えなくても誰もがができる「野生動物と人の命を守る行動」を知る機会となりました。（加瀬澤）